

新代表挨拶

11・19 岐阜総がかり行動 第27弾 岐阜総がかり行動 参加者のみなさん おはようございます。

このたび代表になった弁護士の仲松正人です。よろしくお願ひします。

ご存じの方もみえるかと思いますが、少しだけ自己紹介をします。

私は、沖縄で生まれ、沖縄の「本土復帰」のとき高校1年生でした。沖縄の米軍基地はベトナムへの発進基地、兵站基地でしたので、小学生の頃からベトナム戦争が身近にありました。B52戦略爆撃機がカデナ飛行場で離陸に失敗して墜落したことや、核ミサイルが配備されていたこと、那覇空港のすぐ南にある瀬長島に毒ガスが貯蔵されていたことなど、沖縄は戦場と隣り合わせでした。皆さんご存じの「銃剣とブルドーザー」による土地収奪は、私が生まれるころの出来事で、私自身はそれを直接は知りません。しかし、中学生のとき、現在のうるま市にある昆布という部落での土地取り上げに抵抗する闘争の団結小屋に父親に連れていってもらい、その運動に触れました。この闘争は、米軍に土地を取り上げられることなく勝利しました。

しかし、現在は、県民が反対しているにもかかわらず、かつての米軍のように、日本政府が辺野古に新しい基地建設を強行しようとしています。強い怒りを覚えています。

私は大学進学で名古屋にきました。当時は、私が沖縄出身だと知って、英語を話せるんだろうとか、日本語上手だねなどと素朴に言う人がいて、沖縄のことが知られていない現実に愕然としたことがあります。私たちは学校では日本の教科書で勉強してきました。そして、小学校や中学校で日本国憲法を学びました。

憲法9条の存在を知って、私自身子ども心に日本国憲法の下で暮らしたいと思いました。しかし、復帰しても憲法9条は沖縄に来ませんでした。

憲法9条が来る代わりに、自衛隊が来ました。そして今、自衛隊は再び沖縄を浮沈空母化しています。奄美、沖縄、宮古、石垣、与那国の島々は、自衛隊のミサイル部隊や電子戦部隊が次々と配置されました。馬毛島も自衛隊運用の重要基地にされようとしています。米軍の再編強化も進められています。もしも戦争が始まれば、沖縄は再び戦場となります。

そして、憲法9条は今、沖縄だけでなく、ここ岐阜でも、日本中で危機に晒されています。

日本政府は、自衛隊をつくり、軍事条約である日米安保条約を締結し、ベトナム戦争や中東戦争などアメリカの戦争を支えてきました。しかし、憲法9条を無視することはできませんでした。自衛隊は敵基地攻撃能力は持たない、専守防衛に徹するとしてきたのです。

ところが、安倍元首相が集団的自衛権行使を容認し、戦争法を強行成立させ、解釈で憲法9条を蔑ろにしました。さらに自衛隊を憲法に明記して明文改憲も企まれています。

そして、昨年12月16日の安保3文書の閣議決定で、「安保法制で理論的に整備した

ことを実践する」として、「戦争できる国」から「戦争する国」へ進めることを宣言し、着々と実行に移しています。5年間で43兆円、来年度概算要求では7.7兆円です。岸田首相は支持率回復を狙って経済対策のための減税や給付をしようと言いましたが、すぐにその財源がないことが明らかになりました。しかし実際には財源はあります。軍事費を回せばいいのです。軍事費を国民生活のために使えばいいのです。しかし政府は大軍拡のための予算を削ろうとはしません。アメリカからのトマホークの爆買いも1年前倒しで実施します。400発のうちの半分は旧式です。明日にでも戦争しようという勢いです。皆さん、でも、今、そんな情勢でしょうか。

土地規制法により、各務原基地周辺が特別注視区域とされようとしています。特別注視区域になれば、土地取引や建物新築など地域経済に悪影響が出るでしょう。しかし、それだけでないことは皆さん良くご存じでしょう。戦争のための施設に邪魔はさせない、基地を監視し反対する者を監視し、弾圧し、排除していくための法律です。現在各務原はPFAS問題で揺れています。莫大な費用をかけて活性炭で基準値以下にした水源以外にも、基準値以上の水源が存在することが明らかになりました。各地のPFAS問題をみれば、軍事基地由来であることはほぼ明らかでしょう。それに対する運動が各地で起こり始めています。その活動も監視し、規制されることとなります。命に直結する問題です。

ガザではイスラエルによる国際人道法違反が日々重ねられています。イスラエルは自衛の権利を主張し、殺戮をやめようとはしません。日本政府も戦闘の人道的休止は言いますが、イスラエルの主張を非難することはしないし、停戦も主張しません。そして、この瞬間も、子どもたちを始めとする多数の民衆が命を奪われています。ウクライナをみても、一旦戦争が始まれば、終わりは見えません。犠牲になるのは住民です。

戦争は始めてはいけない、戦争は絶対させてはいけません。

私自身、河合良房先生からは、いろんな場面で世話になり、指導を受けてきました。私は河合先生のようにはなれません。代表になる器ではないと思います。でも、安倍内閣の集団的自衛権行使容認や安保法制に反対し、戦争させないことや憲法9条を守ることを一致点として結集された岐阜総がかりの運動を終わらせるわけにはいきません。その思いで、力はありませんが、代表就任の要請を受けることにしました。

私の故郷沖繩を、そして岐阜を、日本全土を、戦場にしない。憲法9条を実現する。

今後皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。みなさん、力を結集し、頑張ってください。よろしくお願ひします。